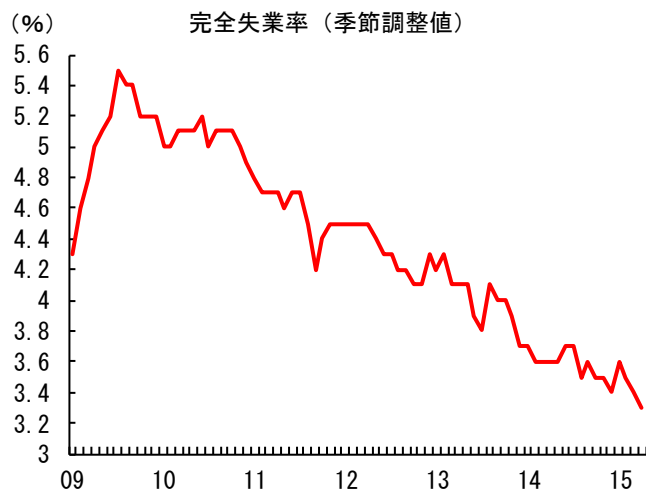


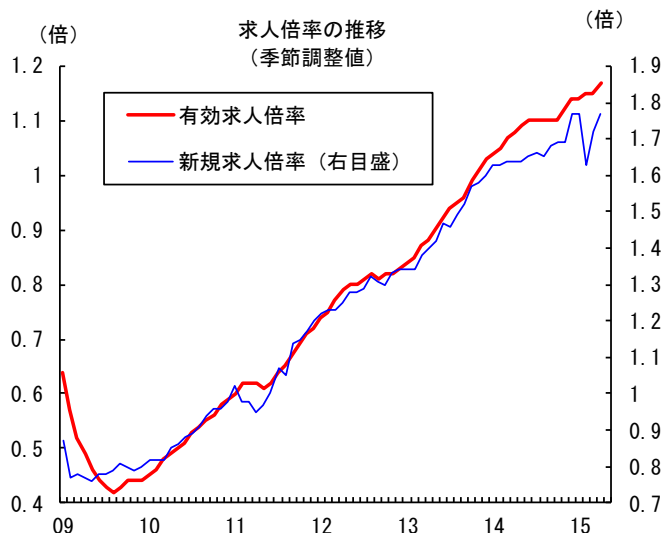
テーマ：労働力調査・一般職業紹介状況（2015年4月） 発表日：2015年5月29日（金）
～雇用者数の減少が懸念材料だが、先行きは改善を予想～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL：03-5221-4528



（出所）総務省統計局「労働力調査」

（注）2011年3～8月は、補完推計値を用いた参考値



（出所）厚生労働省「一般職業紹介状況」

○ 失業率は低下も、内容は悪い

総務省から発表された2015年4月の完全失業率は3.3%と、前月から0.1ポイント改善した（市場予想：3.4%）。これは1997年4月以来、18年ぶりの低水準であり、労働需給の引き締まりが示されている。

もっとも、4月は労働参加率が低下したことで失業率が押し下げられている面が大きく、内容はむしろ悪い。実際、4月の季節調整済みの就業者数は前月差▲28万人（3月：▲10万人）、雇用者数は前月差▲23万人（3月：＋3万人）と、ともに大幅に減少している。男女別では、これまで雇用の拡大を牽引してきた女性の雇用者数が大きく減少している。業種別では、卸小売業の落ち込みが大きい。これまで雇用は順調に伸びてきたため、意外感のある結果である。

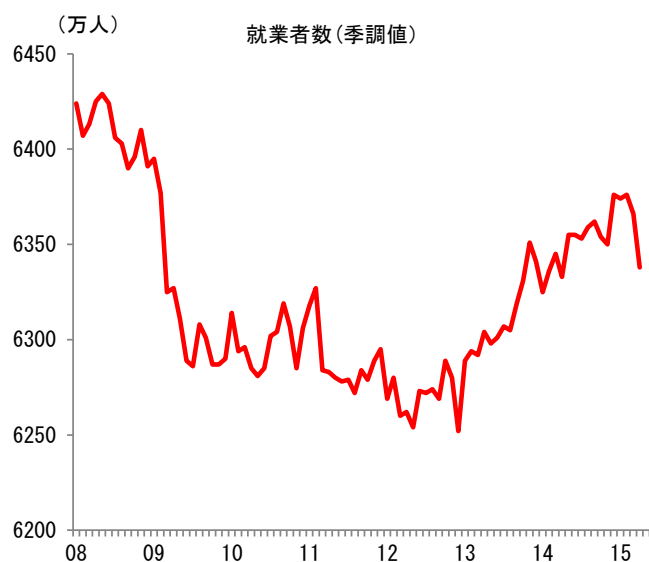
ただ、こうした4月の労働力調査における雇用の悪化については、ある程度割り引いて見た方が良いと思われる。4月については、労働参加率（労働力人口）や雇用者数など、多くの数値で大幅な変動がみられており、これが基調としての動きなのかどうかは疑問が残る。元々振れの大きい統計であることを考えると、単月の振れである可能性もかなりあると思われる。来月の結果も併せて判断した方が良さだろう。景気が緩やかながら回復基調を続けていることや、企業の人手不足感の強さなどを踏まえると、雇用が悪化していくとは考えにくく、引き続き雇用は改善基調にあると現時点では判断している。

○ 求人は増加傾向持続

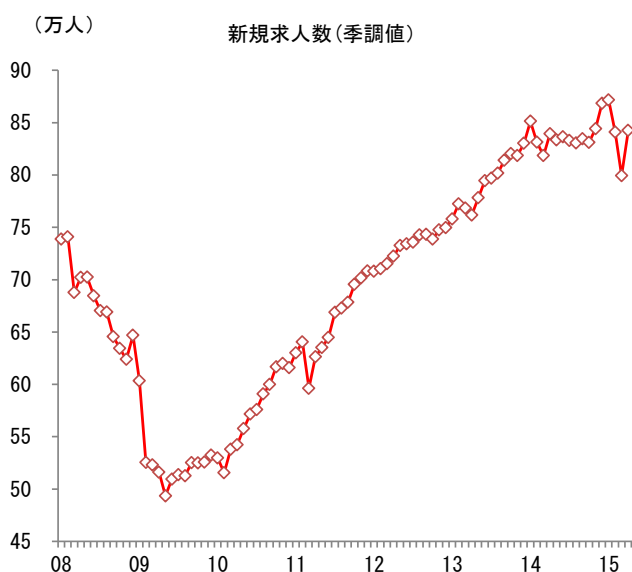
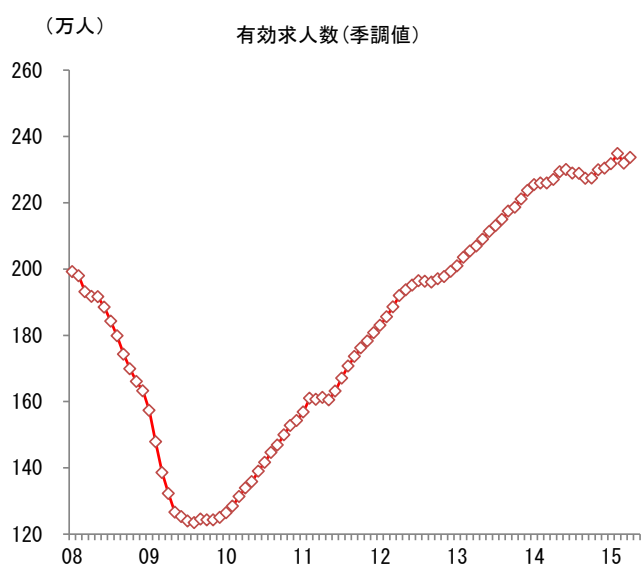
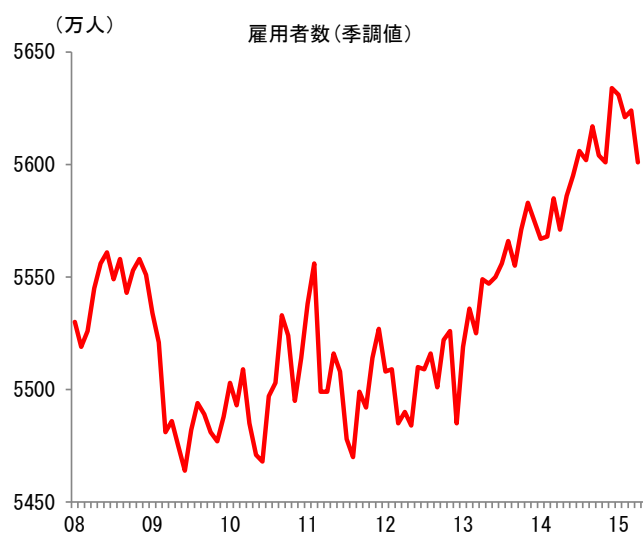
厚生労働省から公表された15年4月の有効求人倍率は1.17倍と、前月（1.15倍）から0.02ポイント改善した。これは1992年3月（1.19倍）以来の高水準であり、労働需給が引き締まった状況にあることが示されている。また、新規求人倍率は1.77倍と、前月から＋0.05ポイント上昇している。新規求人倍率は2月に急低下（1月：1.77倍→2月：1.63倍）したが、3、4月と上昇したことで、元の水準にまで戻った。

有効求人数は季節調整済み前月比＋0.8%（3月：▲1.2%）と増加、新規求人数は前月比＋5.4%と高い伸

びとなった。有効求人数は改善基調が続いている。なお、新規求人数は2月に前月比▲3.5%、3月に▲5.0%、4月に+5.4%と、このところ異様に振れ幅が大きいことが目に付く。もっとも、弊社で直近までの値を元に季節調整をかけ直したところ、公表値で示されているような急変動は確認されず、足元まで堅調な推移が続いているという結果になった¹。季節調整が上手くかかっていない可能性が高いのではないだろうか。企業の雇用不足感が非常に強い状況に変化はなく、求人を取り巻く環境は改善していることを踏まえると、引き続き雇用情勢は良好と判断したい。前述の通り、4月の労働力調査は冴えない結果に終わったが、先行きも雇用は着実な改善を続ける可能性が高いと予想している。



(出所) 総務省「労働力調査」



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

¹加えて、公表値では、新規求職者数について、季節調整済み前月比で2月が+4.8%、3月が▲10.0%、4月が+2.6%と、過去にない奇妙な増減を示していることも、季節調整が上手くかかっていないことを疑わせる材料だ。